

雄川堰が名水百選に

▶▶ 本県では2カ所だけ ◀◀



▲桜花舞い散る春の雄川堰

雄川堰が国民の水に列する関心を高め、併せて優良な水環境の保全を図るために実施している「名水百選」に小幡の「雄川堰」が選ばれました。今回の発表（三月二十八日発表、六十九件）で百件（一月に三十一件発表）の名水がそろいましたが、本県では本町の雄川堰と吉妻・廣村「箱島湧水」の二カ所だけという名譽ある選定を受けたわけですね。

雄川堰がいつ、だれの手によって製造されたかを伝える資料は残されていませんが、室町時代に造られたものと推測されます。

雄川堰の水源は、隠舎山から流れ出す雄川で、崩橋下手から取水し、いくつかの鵜所を克服し水を送っています。その最大の鵜所が吹上の鵜所川を渡る所で、長さ六尺にも及ぶ一丁石を組み合わせた石

おがわぜき 雄川堰

樋（松平氏により幕末の慶応元年に現在の石樋が完成。これ以前は木製であった）で水を漏れなく下流へ送っていました。

古くから生活用水、農業用水として人々の生活を支え、明治時代には、製糸、精米などの動力資源としても大切な役割を果たしてきました。

現在では、雨水組合で年一回、水を止めて清掃するほか、地元第一区（山田町長）百七十一の一人たちが各戸交代で毎日水路内十二カ所の清掃を行うなど、全戸駆けて貴重な文化遺産の保護に努めています。



◀ 町谷の雄川をまたぐ「石樋」